

小板はすぎの木にて細く玉子をのするほどにして
羽子板の如くもつ所をほそくしてかくべし

◎紅白うちもの拵方

三盃砂糖 百匁に極上みぢん粉 六十匁のわりに
て砂糖と粉とまぜ合せて、茶碗などへかたくつめ
て、打かへし出すべし、砂糖へ水のしめりたけま
ぜおきて粉と合せて形に入るべし、紅は色よきは
どに砂糖にまぜおきて、後に粉と合すべし、べに
は細工紅の生上味といふを用ふべし、ピンヅメの
食用紅は用ふべからず、

洗濯水と香水の製法

在相州腰越 平岩學洋

私には皆さんに洋風洗濯水及香水の製法を御紹介
致しませう、此れは私の家庭で實行してゐるので

あります、此の製法は至て便利で、又買った物に
比べると餘程優ております、皆さん試にやつてご
らんなさい。洋風洗濯水製法、此れは西洋で盛に
製するのであります、恰も我が國の洗粉等製す
るのと同じであります、此の製法は専らあくとな
ぶらとを混じて製しました尋常白石鹼五十六匁と
炭酸曹達六十四匁、蒸留水（或は雨水を以て代用
す）三升六合、テレメン油清十六匁とをよくまぜ
て、之れを火にあげ、しづかにかきませ、凡そ十
五分間程沸騰せしめ、其の後便宜の入れ物に移し
入れて貯ふのであります。之れを一時に澤山こし
らへておきまするには、右の割合に調合すれば宜
しいのであります、其のこしらへた水は使用の際、
適宜の水に和して衣服を洗ふのであります。（用法
は凡一升六七合の水、若しくは湯の中に洗濯水一

合五勺位を投入して物品を洗ふのであります)

顔用香水製造法、此の製法は苦扁桃水三十匁と、薔薇水百二十匁と、蜂蜜十四匁と、蒸餾水四十匁とをよく混ぜ合せまして、瓶に入れ、密栓して貯へておくのであります。此の香水は専ら顔面の様な所へ塗るに適しております。殊ににきびをなかし、面部を軟かにし、且つきめをこまかにするに特效あります。又其の香氣頗る佳良であります。使用の際はよく瓶を振つて用ゆるのであります。

富士ちやんの日記

(明治三十四年十一月生)

會員 某 女

明治三十五年八月七日 昨夜は十時頃までも起きて居り、又今朝は五時頃から目をさましたから、

餘程よくひるねをする筈であるに、わたり暑さためか、少しもねず終日機嫌わるし夕方湯をつかひ、それから漸く眠りたり。

八月八日 始めて鬚具のガラ／＼を廻すことを覺え、ヤー／＼と言ひながら、切りに喜びて遊ぶ。夕方取父ちやんに、肩車をして貰ひ、あまり喜しさに、ケラ／＼笑ひながら、頭をふつて額を打ち、瘤一つ出来た、しかしそれも平氣でした。八月九日 正午十二時のうつを聞き、其時計を取らんとして大騒をなし、終には持前の疝癩を起して、泣き出したり。

八月十日 始めてチヨーチ／＼が出来た。又アバ……も二三日前迄は口に手を當て、口でアバ……と言ふて居たのが、今日はホントに手を動してアバ……が出来た